

## 平成 29 年度 第 5 回三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時：平成 30 年 1 月 25 日（木）

14 時 00 分～16 時 00 分

場所：勤労者福祉会館 6 階 研修室

1. 開 会
2. 主催者挨拶
3. 議 事

鈴鹿川水系（指定区間）の河川整備計画について説明をし、次のような意見をいただいた。

- ・ 整備対象河川の計画規模がそれぞれ異なる理由を説明していただきたい。
- ・ 鳥類の調査が 7 月にしか行われていないが、季節によって確認できる種類が違うため、可能な限り冬季にも調査を行っていただきたい。
- ・ 草木についても春にしか確認できない種が多いため、調査に努めていただきたい。
- ・ 近年の災害を踏まえて、流域内の流木が発生する可能性のあるエリアの把握に努めていただきたい。
- ・ 矢板護岸は、低コストであるが、腐食による水質への影響が心配である。また景観面も良くないと思われるため、環境と景観への配慮をしていただきたい。
- ・ 土砂堆積が多いとされる一方で、改修断面図では草木を繁茂させるイメージとしており、土砂堆積の助長が懸念されるため、整備済みの他河川の状況を確認していただきたい。

神内川水系の河川整備計画について説明をし、次のような意見をいただいた。

- ・ 水田貯留効果を見込んだ場合 1/30 流量から 1/5 程度に低減する説明があったが、基本方針の比較検討における遊水地案との違いを説明いただきたい。
- ・ 動植物の生息環境に対して「保全に努める」といった言葉のみで片付けず、改修工事の際には事前調査により現状をきちんと把握し、それを踏まえた工事内容とする等、具体的な検討をいただきたい。
- ・ ウナギが減っているという現状の中で、河川改修を行うには困難を伴うが、魚巢ブロックの効果について専門家の意見を聞く等、工事の際には慎重に行っていただき、効果的な工法があれば積極的に活用してほしい。
- ・ 整備計画に対して基本方針の地震津波に関する記述内容が曖昧である。L1 及び L2 津波それぞれの対応について、可能な限り具体的に記述いただきたい。
- ・ 水田の貯留効果については、整備計画（原案）やアンケートにおいても説明を加えていただきたい。

4. 閉 会